

対象	中学校 3 学年以上
教科	保健・体育科
該当 単元	中学 3 年 「文化としての スポーツ」 ・国際的なスポーツ 大会とその役割
教科書	学研・大日本図書等
掲載日	2017. 12. 13. 朝刊 12 版 20 面

# 高難度ミヤチ 新技に手応え

男子鉄棒のスペシャリスト宮地秀享（茗溪ク、愛知県半田市出身）が、10月の世界選手権で成功させたI難度の新技「伸身コバチ2回ひねり（伸身プレトシュナイダー）」の精度を上げている。  
6月の全日本種目別選手権などで披露した後、世界選手

## 鉄棒・宮地東京五輪へ急成長

### 体操

権の種目別鉄棒で国際大会では初めて決めた。  
伸身後方宙返りとひねりを2回ずつ入れる新技は「ミヤチ」と名付けられる見通しで、国際試合初制覇となった9、10日の豊田国際競技大会でも観衆のごよめきを誘った。「調子が良い悪いでな



鉄棒でI難度の「伸身プレトシュナイダー」を成功させた宮地秀享の連続合成写真（左下から時計回り）＝豊田市総合体育館で

く、決めたいときに決められるようになってきた」と自信を深める。  
I難度は全種目で最も難度が高い。第一人者の内村航平（リンガーハット）が得意とする「カッシーナ」は、ひねりが一つ少なく、難易度は二つ下。世界選手権は別の離れ技で落下して5位にとどまったが、宮地は「出ている全選手を見て勝てるなど思った」と手応えを感じた。  
筑波大時代はけがで結果が出なかったが、当時からI難度の「プレトシュナイダー」をこなすなど、鉄棒の潜在能力は「すばめけていた」。  
競技の傍ら、中高一貫校で非常勤講師を務める23歳の苦勞人が遅咲きながら急成長。「来季は同じ技をやってくる選手が出てくる。さらに差を広げたい」と言い、「ミヤチ」の進化形や離れ技以外のつなぎで改善点を模索する。  
新技を軸に演技構成を練り上げ、2020年東京五輪までに誰も追いつけない領域を目指す。「今は6・7のDスコア（演技価値点）を来季は7点台にしたい」と飽くなき挑戦を続ける。（佐藤航）

問1：10月の世界選手権と12月の豊田国際競技大会で、宮地選手が成功させた鉄棒I難度の技は何という技ですか。詳しく説明しましょう。

（ ）という技で、身体の動かし方でいえば、伸身姿勢で（ ）と（ ）を2回ずつ行う技です。

問2：体操競技界の第一人者、内村航平選手が得意とする「カッシーナ」の難度はどのくらいですか。（ ）難度

発展：新しい技を初めて成功させるとその人の名が技の名前になります。宮地選手の成功させた技を、屈伸姿勢で世界最初に成功させた人は誰ですか。

（ ）